

平成29年度第2回 知床世界自然遺産地域
適正利用・エコツーリズム検討会議
議事録

日時：平成30年2月19日（月）13：30～16：30
場所：斜里町産業会館 2階 大ホール

会 議 次 第

開会

あいさつ

議事

1. 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況
2. 実施部会からの報告
 - (1) 赤岩地区昆布ツアー一部会
 - (2) 外国人旅行者向け情報発信の強化部会
3. 個別部会等からの報告
 - (1) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業
 - (2) 知床五湖地区における取組
 - (3) カムイワッカ地区における取組
 - (4) ウトロ海域における取組
4. 長期モニタリング計画の見直しについて
5. その他
 - (1) 知床国立公園利用のあり方に関する検討について
 - (2) 第41回世界遺産委員会決議の対応について
 - (3) 検討会議参加者意識調査のお願い
 - (4) 観光庁および域外観光事業者の検討会議への参画について

閉会

事務局 環境省 石川

これより平成 29 年度第 2 回知床世界自然遺産地域適正利用エコツアーリズム検討会議を始めます。斜里町長馬場隆様よりご挨拶をいただく。

斜里町長 馬場

皆様、大変お忙しい中、知床世界自然遺産地域適正利用エコツアーリズム検討会議にご参集いただきありがとうございます。改めて感謝申し上げます。

冬のオホーツク、知床の主役といえば流氷と言える。若干の遅れはあったが今年も知床の地に寄ってくれた。今年の流氷の面積は、例年と比較すると大きいと感じている。風が吹く度にハラハラするが、そのような心配も無くどっしりと腰を落ち着けて居る。そのお陰で知床の真冬のイベントである「流氷ウォーク」、「厳冬期の知床五湖エコツアー」、「知床流氷フェス」といった知床三大プログラムである体験プログラムの利用が順調に推移している。

私もこういうイベントを積極的に紹介しているが、恥ずかしいことに流氷ウォークも子供の頃に体験した限りで、プログラムになってからは体験していない。知床五湖のエコツアーは 4 年目を迎えるが、これも未経験であったため、つい先日一日に午前と午後の 2 回のツアーを体験した。まさに冬を体感、知床を体感するといって良いプログラムであると改めて確信した。流氷ウォークでは、大人も子供に返ったように無邪気に流氷と戯れるという感じであった。子どもはいつまでも帰ろうとしないという風景もあり、ここが海の上であるということを感じながらプログラムを楽しんでいてくれたのではないかと思います。

知床五湖エコツアーでは、集合場所から岩尾別のゲートまで行った。ガイドが車から降りて周囲の確認を行いながらゲートの開閉を行っていた。また、知床五湖に到着してからは程良い距離感を保ち、良い形でエコツアーが行われていることを実感した。4 年目を迎え、本来であれば試験除雪より普通除雪に切り替わる年であった。知床五湖の良さを自然の価値を損なわずに楽しむ事ができる方法、リスクがある冬季において安全性をどのように保っていくか等、良い方法はすぐには浮かばない。そのような中でどのような方法を取れば両立ができるのか、皆さんに楽しんでもらえるのかを自主除雪によってまずは 1 年かけて今後に向けての方向性を出していきたい。知床らしいルールが定められると良いと考えている。皆さんの知恵をいただきながら方針を定めていきたい。

知床の価値をしっかり守りながら観光を含めた経済が活性化するような道、それが適正利用エコツアーリズムの精神ではないかと思っている。皆様の様々な知見を結集しながら今後に向けての審議をお願いしたい。

本日の議事の中身を見ると、沢山の内容が盛り込まれているようである。十分に様々な角度からご検討いただき、これからの知床適正利用エコツアーリズムの更なる前進のために力添えいただくことを心からお願い申し上げます、皆様への歓迎と感謝の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくご挨拶申し上げます。

事務局 環境省 石川

出席者の確認をする。手元の資料に出席者名簿を添付している。本日は石川委員が欠席であるが、6名の委員に出席いただいている。関係団体、関係行政機関の皆様は出席者名簿の通りである。また、北海道運輸局北見運輸支局の田尻運輸企画専門官にオブザーバーとして出席いただいている。

【資料確認】

これより進行は敷田座長にお願いします。

敷田座長

馬場町長には具体的にエコツアーへの参加、体験に基づく実感のあるコメントをいただきありがとうございます。知床は皆さんが認めている通り、優れた観光地であり、優れたツアーが提供されているところである。ツアー自体が知床の持つ一つのブランドであり、「知床がこのようにありたい」、「知床の自然をこの様に維持していきたい」というメッセージになっているのが理想である。このエコツーリズム検討会議で議論していきたい。

今年は私が住む北陸も大雪であり、雪国から雪国へやって来たがたどり着けて良かった。

本日の議題には提案が無い。そのため提案に関わる発言に緊張しておられる方はいないと思う。このような時間的余裕がある際に、将来にわたる方向性に対しての議論に時間を使っていきたい。将来に渡る方向性は、日常の活動の中で意識しておられずは必ずである。自身の考えを関係者と擦り合わせて、共通の方向性を持つことができれば、知床としてのブランド化やマーケティングが非常にやり易くなることはあきらかである。是非この場を使って実現していただきたい。

それでは議事に従い進めていく。ルールの確認であるが、この会場での発言により自身の責任を問われることは無い。基本的に自由に発言してほしい。無責任な発言を勧めているわけではなく、この場は新しい知床についてのアイデアや、将来にわたる新しい考え方を作っていく場であるため、勇気を持って発言していただきたい。また、発言は自身の意見と所属する団体としての意見を区別してほしい。団体の中で合意が形成された意見は一定の重みがあると考えている。その点を皆さんに共有していただきたい。

本日の会議時間は2時間半ほど用意されている。参加人数から考えると一人一人の発言時間に制約がある会議となっている。一生懸命発言をしていただくと同時に、他の方の発言にも耳を傾けていただきたい。

議事の1点目、知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況の報告である。以前までの会議において、進捗、提案後の管理がどのようになっているのか分かりづらいという意見があった。分かりやすく説明するために前回会議より進捗状況の管理を行っている。

これについて北海道庁より説明願う。

【議事 1. 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況】

北海道オホーツク総合振興局 石井

知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況について説明（資料 1）

敷田座長

石井氏は取りまとめの中で何かお気づきになったことがあるか。

北海道オホーツク総合振興局 石井

この進捗状況は会議次第と密接に関連しており、環境省との連絡を取り合うことが重要だと考えている。

敷田座長

時間を使った検討結果がどのように運用されているかというのは、それぞれの部会を担当された方を含め、皆さんにとっても非常に重要な事である。報告の協力をお願いしたい。進捗状況に関して何か意見やコメントはあるか。

議事の 2 番目である具体的な報告に入る。進捗状況の表を見ながらお聴きになっていただきたい。

実施部会からの報告、赤岩地区昆布ツアー一部会、外国人旅行者向け情報発信の強化部会の二つの部会から報告いただく。

【議事 2. 実施部会からの報告（1）赤岩地区昆布ツアー一部会】

知床羅臼町観光協会 若林

前任の池上より引き継いだ知床羅臼町観光協会の若林と申します。どうぞよろしく願い致します。

赤岩地区昆布ツアー（知床岬 399 番地上陸ツアー）部会報告について説明（資料 2-1）

敷田座長

本日は時間に余裕があるため 1 件ずつ話をしていきたい。私から 1 点確認したい。先ほどの発言では「ツアー名に上陸を打ち出せた事によってインパクトを強める事ができた」という説明であった。上陸が目的という説明は初めてである。むしろ上陸の意味を説明していただく事が、この場の承認条件からして妥当だと思うが、次回以降に旅行会社等へ配布した資料等を付けていただけないか。

そうすれば、このツアーからどのようなメッセージを発信しているかが分かると思う。

知床羅臼町観光協会 若林

承知した。

敷田座長

最少催行人数を4名から2名に変更しているが、2名に変更した事でオペレーションの変化は無い。特に上陸後のオペレーションで何か変更があれば教えてほしい。

知床羅臼町観光協会 若林

変更は無い。

敷田座長

環境省は承認になった際の条件が書かれた文書を手元にお持ちか。後で確認させていただきたい。毎回確認をしておいた方が良い内容である。

知床ガイド協議会 綾野

座長の発言どおりとても重要なことである。募集用の資料があれば見たい。ツアー会社の募集方法を確認したい。

敷田座長

手持ちの資料等で回覧可能なものがあれば提供願う。

知床羅臼町観光協会 若林

本日は持ち合わせていない。

敷田座長

ガイド協議会からもリクエストがあったため資料の用意をお願いする。次回会議まででは時間が空いてしまうため、資料は事務局に提出してほしい。事務局から可能な範囲で配布願う。資料が膨大になる場合は整理していただいて結構である。協力願えるか。ありがとうございます。

環境省より承認時の基準をレポートするが、これは知床羅臼町観光協会に聞いてもらうという意味ではなく、この場で共有するためである。次回以降に同種の議論があった際にも同様である。

事務局 環境省 守

承認時の条件が何点かある。1つ目は地域内の合意形成を図ること。一般の方の意見が十

分聞けていないという事から、5年後を目途に地域内の合意形成を進めていただくということ。2つ目は経済的、経営的な持続可能性を担保して欲しいということ。利益を大きく上げるという意味ではなく、ツアーの方法がしっかり提案された内容で履行されるためには、経済的に持続可能であることが必要だという事である。3つ目はツアーのスタイルについてである。上陸というところだけを打ち出すのではなく、あくまでも原生的な自然と文化をセットにしたブランディングでツアーを発信してほしいというもの。また、人数制限を最大20名で最高で30日という制限を守って欲しいというもの。4つ目はモニタリングを継続するという事である。植生の定点撮影モニタリングの他、先行利用者であるトレッカーの意見を集約するという事。

提案者より催行すべき制約が多いためセールスができないという話があった。それぞれの条件を踏まえて5年間試験的にツアーを行なっていただいた上で継続する判断をするという条件となっている。

敷田座長

知床羅臼町観光協会の提案は環境省が説明した条件で承認された案件である。もし内容を変更したい、承認の内容と合致しているかを確認したいという場合は、事務局に相談いただくか、この場で皆さんに問うていただいても良い。特にツアーの形態や場所にこだわっている訳では無い。むしろそのツアーを何のためにやるかという事を皆さんは重視して承認されていた。その趣旨に沿っており、人数条件等の絶対的な条件に触れなければ、場所や時期の変更は可能だと考えている。議論していただきたい。

間野委員

このツアーの実施時期で、一番人気があるのは何月なのか。

知床羅臼町観光協会 若林

7月下旬から8月上旬である。

間野委員

承知した。

敷田座長

意見が無ければ2番目の外国人旅行者向け情報発信の強化部会からの報告をお願いします。

【議事2. 実施部会からの報告(2) 外国人旅行者向け情報発信の強化部会】

知床財団 寺山

「外国人旅行者向け情報発信の強化」部会 各団体の平成30(2018)年度 事業計画の

うち、部会活動に関連する事業一覧について説明（資料 2-2）

小林委員

非常に素晴らしい試みをされている。できれば将来的には受発信ができるように考えてほしい。インタラクティブにやらなければ効果が出ない。ここではウェブとパンフレットとなっているが、情報媒体というのはガイドも含めた「人」も含まれる。ガイドの役割も全体を含めて情報発信のあり方をトータルに考えた方が良いのではないか。知床の価値をよりわかりやすく利用者に伝えて行くためには、それぞれの媒体の役割があると思う。ガイドが抜けているが、媒体のパートとしてのガイドの役割は非常に大きいのではないか。

敷田座長

2点の指摘があった。1つは受発信、特に受についての努力はどうなっているのか。もう1つはガイドについて。これはガイド協議会の意見も必要とする。当面の方針は持っているか。

知床財団 寺山

インタラクティブに情報を受ける仕組みについては定型的になっていない。外国人旅行者に対して、日々様々なカウンター対応を行なっている際の実感、あるいは感想として、例えば、どのような方が、どのようなイメージから来訪を決め、どのように知床を感じ、何が必要とされているか、を考えている。データ化されているわけでは無く弱い部分である。

また、それぞれの団体ではFacebook等で旅行者とのコメントのやり取りを行っていると
思うが、実態に関しては把握していない。現状では方向性が特に無い状態で、課題であると
考えている。

情報発信における人という要素、ガイドの役割は大変重要なことである。外国人対応は、
各団体やガイド等が様々な形で行っている。かなり初期段階にはワークショップのような
ことを行った。現地で直接お客さんに対応する、将来的な旅行を提案するという事は日常
的に行われていると思うが、現地到着後のお客さんへの情報提供が抜けていたということ
で、「情報玉手箱」ができたという経緯がある。

第1ステージとして、ガイド事業者やカウンター対応者が使えるような情報インフラを
作るということ。到着後の旅行者と情報提供側の情報共有から始めたということである。
次のステップとして、ガイドにとって有効な施策があれば是非提案いただきたい。

敷田座長

知床ガイド協議会として、今後のガイドの多言語、多文化に対する運営方針があれば伺
いたい。

知床ガイド協議会 綾野

ガイド協議会では、海外の方の増加に合わせてホームページの全文章を英語版で作成しているところである。現在は、星の時間とサイクリングサポートの 2 か所で英語対応を行っている。「英語対応できます」というリンクを貼って、問い合わせに対応している。

メールへの対応はかなり丁寧にできている。メールによる問い合わせをしなくても済むように、ホームページでの 4 カ国対応、多言語化を進めている。4 カ国語対応を PR するパンフレットを作成している。

敷田座長

資料 2-2「各団体の平成 30（2018）年度事業計画のうち、部会活動に関連する事業一覧」で、全ての項目に予定なしと入っているのは斜里町だけである。斜里町として具体的な方向性があれば説明いただきたい。今後、外国人旅行者の増加は明らかであり、どのような想定をされているかを伺う。斜里町側に旅行者が多いことは現実であり、外国人旅行者の比率も同様になっていると思う。

斜里町 河井

斜里町観光担当は知床斜里町観光協会の記載事項を全面的に支援しており、何も行っていないということではない。知床斜里観光協会の取り組み事項と同様だと思っていただきたい。

昨年度の外国人旅行者は、宿泊者ベースで全体の 10.6%を占めている。インバウンド訪日状況よりはペースがやや低めではあるが順調に推移をしている。1 年間に 1%~1.5%程度外国人旅行者の割合が増えているという状況である。平成 35 年度に 20%まで高めることを目標にしており、目標達成に近い状況での伸びを示している。

外国人旅行者の内、90%がアジア圏である。多い順に台湾、中国、香港、シンガポールとなっている。また、傾向として割合は少ないながらも欧米が急増している。体験型観光地、体験滞在を目指す意味では、欧米の方にも是非来てもらいたい。遠方から来てもらえるような観光地作りを進めて行かなければと思っている。

敷田座長

現在 10.6%で目標が 20%という事であり、実現可能な領域に入っているという話であった。そこまでの現実があると 20%になった場合を想定して様々な対策が必要になると思う。年 1 回の統計がまとまった際にこのエコツアーリズム検討会議で報告していただけるか。皆さんで共有しておいた方が良いのではないか。羅臼町も同様だが如何か。

斜里町 河井

承知した。

敷田座長

環境省では知床白書、年次報告書にこれを反映する時期だと思うが如何か。現在、来訪者は国別では無く一括りにされているが、取りまとめ方を工夫してはどうか。記載については「外国人旅行者」とするのが良いのかは分からないが、両町で資料は作成済みであると思う。

事務局 環境省 石川

今年度（平成 28 年度分）のとりまとめ作業は終了しているため、来年度（平成 29 年度分）作業を進める中で検討したい。

敷田座長

羅臼町はよろしいか。本日は外国人旅行者について説明が可能か。

羅臼町 遠嶋

本日は資料を持ち合わせていない。

敷田座長

次回以降に知床白書に反映させていただく。

環境省は外国人旅行者の増加への対応について、具体的な知床もしくは道東圏での事業はあるか。

事務局 環境省 石川

環境省では、知床国立公園における外国人旅行者対応への直接的な予算は無い。しかし、国立公園全体として外国人旅行者の対応は充実させていくべき項目となっているため、様々な予算の中で間接的に支援できるものはある。知床における全体の方向性に沿って、どのような取組に支援を行うことが適切なのかを考えながら進めて行きたい。

敷田座長

知床の外国人旅行者増加に対して、今後の具体的な予算要求等を考えているのか。

事務局 環境省 石川

資料にあるとおり、情報発信など既に取り組んでいるものもある。本件は知床財団からの提案であり、知床財団が行う情報発信の強化について、これまで部会での議論や委員の皆さんからの助言を踏まえ進めてきたところである。今年度は部会が未開催であるが、環

境省としては、部会での議論を通じてどのような支援ができるか検討していきたい。

敷田座長

外国人旅行者だけに限定するわけではなく、知床の魅力をどのように人に伝えるかというのは重要で、文化や住む国が違っていても伝えていく必要性がある。その際に大元になる「何を伝えるか」をもう一度見直していただきたい。

翻訳はお金さえ掛ければできるが、「何を伝えるか」は明確な言語化が必要である。大元の知床の価値をもう一度整理をする機会を作っていただきたい。

知床ガイド協議会 綾野

北海道の主催により、昨年と本年、海外の方とのコミュニケーションに関する講習を行っていただいたが大変有意義な講習であった。北海道の方はエコリズム向けとは認識していないのかもしれないが、深く関係するものである。資料 2 の北海道に含めていただけたら良いのではないか。

敷田座長

北海道オホーツク総合振興局の石井氏、来年以降はその機会を倍にしていだけないか。

北海道オホーツク総合振興局 石井

事業の位置付け等により、知床に限定しているわけではない。オホーツク全体を見据えた釧路根室管内も含めた取り組みであったため、ここには上げていなかった。

敷田座長

これは自然環境課の予算ではないのか。観光局の予算なのか。

北海道オホーツク総合振興局 石井

オホーツク総合振興局地域政策課観光室の取り組みである。

敷田座長

他の国立公園も含めた道内の外国人対応の予算にはどのようなものがあるか、次回会議の際に北海道の予算範囲で調べていただけないか。先程綾野氏が仰っていたのはガイド養成、英語講習のようなものか。

北海道オホーツク総合振興局 石井

北海道で行っているのは、英語講習ではなく外国の方とのコミュニケーションをどのように取るかということである。

敷田座長

そういう事業は知らなければ予算を取れないということがあり、知っているという情報が非常に重要である。石井氏には苦勞を掛けるが、類似事業も探していただけると非常に助かる。

北海道オホーツク総合振興局 石井

おそらく道東では3事業程度の取り組みだと思う。

敷田座長

観光庁関連でこのような支援を行う事業は他にもあると思うが、本日出席いただいている北海道運輸局北見運輸支局の田尻氏にご存知無いか。本日で無くても良いので紹介いただければ非常に助かる。部会で検討が進んでいるため、是非支援いただきたい。

北見運輸支局 田尻

次回以降の報告で良いか。

敷田座長

国立公園での事業があれば本州を含めて教えていただきたい。日光などでは外国人旅行者は非常に多いはずであり、様々な対応を行っているのではないか。是非そういう支援事例を紹介いただきたい。

知床財団 寺山

様々な提案をいただきありがとうございます。部会が未開催であることは我々の事務能力の無さからである。本来であれば個別に様々な議論を行った上で部会を開催し、擦り合わせるということが一般的だと思うが、それができていないということ。話が進められずに力不足を感じている。協力いただきながら進めたい。よろしくお願い致します。

敷田座長

具体的に協力していただきたい内容、相手はいるか。

知床財団 寺山

協力いただきたい方には連絡する。よろしく申し上げます。

敷田座長

斜里町は平成35年度に外国人旅行者を20%にする目標があるが、それは旅行者の5人に

1人が外国人だということである。5人に1人というのは、見渡せば非常にたくさんの外国人が居るといように錯覚する数字になると思う。そうってから準備をするのでは遅いため、現時点で知床をどのように説明し、どのように使ってもらおうかということを考えていければと思う。それは、本来は日本人に対しても必要なことであり、文化の多様性について来訪者に対してどのように説明をしていくか、知床の価値をどのようにして享受してもらおうかを検討する必要がある。

外国人旅行者の話題に関連して、今年度は愛甲委員に外国人利用者の動態調査、意識調査をやっていただいた。報告願う。

愛甲委員

昨年度、今年度と調査をさせていただき、協力いただいた皆様には感謝申し上げます。

外国人利用者の動態と意識調査結果の報告について説明。(参考資料)

敷田座長

調査終了直後に迅速に報告していただきありがとうございます。

庄子委員

愛甲委員と同様に外国人観光客の野生動物に対する距離感についての調査を行っている。結果について口頭で報告をさせていただく。特にヒグマの問題であるが、非常に近い距離で遭遇した場合に、日本人でも喜ぶ方もいれば大変だと言う人もいる。2005年に愛甲委員が行ったアンケート調査を、中国語の繁体字と簡体字、韓国語、英語に翻訳し、主に知床五湖に来た外国人観光客向けにアンケート調査を本年度実施し、距離感の望ましさの評価をしていただいた。

目の前にヒグマが現れて、かつヒグマがこちらに近寄ってくるような状況に対して、日本人は「非常に望ましい」、「望ましい」と評価する方は0.7%とほとんどいない。「非常に望ましくない」、「全く望ましくない」と評価する方は98.2%であった。

私は外国人観光客の評価に衝撃を受けた。ヒグマが近寄ってくる状況を「とても望ましい」、「望ましい」と評価する方が13.8%であり、感覚的に言うと8人に1人程度がそういう考え方であるということ。

日本人観光客のヒグマへの対応にも様々な問題が起きているが、外国人観光客に関しては更に何らかの対応が必要なのではないかと考えている。機会があればまた報告させていただく。

敷田座長

環境省、林野庁は類似の調査は行っているか。

事務局 環境省 石川

環境省では、愛甲委員に協力をいただきつつ、知床五湖などで利用者の実態調査やアンケートを定期的に行っている。

敷田座長

外国人に特化して調査を行ったのか。その時の調査結果との違いはあるか。

事務局 環境省 石川

アジア系の旅行者が多いといった同様の傾向だと思うが、詳細は現在持ち合わせていない。今後も定期的に調査を行うため、引き続きアドバイスをいただきながら進めていきたい。

敷田座長

愛甲委員、庄子委員の調査結果は、今後詳しい報告も出されるため、是非注視していただきたい。以上で議事2実施部会からの報告を終了したい。

引き続き議事3の個別部会等からの報告に入りたいが、その前に座長の私から一つお願いがある。この会議は参加人数が非常に多い会議であり、「発言をしたいのにできない」、「あの場面でもう少し話しを聞いておきたかった」というような意見をいただく。試行ではあるが、改善に向けた議事運営に関するアンケートを皆さんのお手元に配布している。協力願いたい。立場が違っても書けるように考えており、特定ができないよう属性の記入はほとんど無い。名前等は書かなくても結構である。伺っているのは年齢層だけであるため特定は難しい。自由に書いていただきたい。会議終了後に出口で回収させていただく。集計して次回以降の様式を設計したい。特に異論がなければお願いしたい。

個別部会等からの報告、厳冬期の知床五湖エコツアー事業について報告願う。

【議事3. 個別部会等からの報告（1）厳冬期の知床五湖エコツアー事業】

知床斜里町観光協会 新村

平成30年度以降の知床五湖冬期エコツアー事業のあり方について説明。（資料3-1）

小林委員

次年度以降はどのように進める予定なのか。

斜里町 河井

道路管理者は地域との合意を持って通行止め解除を行ないたい意向であるため、現時点では課題解決の目途が立っていない。次年度に条件が整うことは苦しい状況である。

敷田座長

苦しい状況とは具体的にどのようなことか。

斜里町 河井

現在は、特定使用許可によりガイドの同行を義務づける仕組みを持ち、協議会が事業主体となることで運営ができています。道路を開放することにより不特定多数の人が五湖園地やその直前まで行く事ができる環境ができてしまう。そうなった場合に現場でのコントロール方法を同時に組み立てる事が不可欠である。強制力を持ったコントロール手法というのは見つかっていないというのが現状である。これまでは道路法に基づく特例使用許可に依存してきたが、道路法の目的では利用のコントロールは謳っていない。その他、道路交通法、自然公園法、土地所有関係、町条例等、該当する法律が無いかと模索しているが、現時点では答えが見つかっていないという状況である。

敷田座長

環境省はこの件に関してどう考えているのか。

事務局 環境省 山本

現在のツアー利用、バックカントリー利用のように利用制限のある利用以外に、一般観光客を制限なく入れるように進める考えは無い。制限なく入れるようにする事は、知床の目指す適正な利用、価値のある利用とは別の方向になってしまうと考えている。

小林委員

冬期に新たな車両規制導入をすることを考えているという理解で宜しいか。

事務局 環境省 山本

新たに利用規制、車両規制をしようという事は考えていない。環境省としては、冬は一般利用者に利用させないという考えである。斜里町では道路交通法等による利用規制ができる方法がないかを一生懸命考えていただいている。

中川委員

冬期の知床五湖は非常に魅力的な得難い体験ができる場所であり、利用者の増加も理解できる。限定的な利用で知床らしい体験ができるという魅力が知れ渡ってきたのではないか。一般に開放して大勢の人が入るような状況は、環境や利用の面でも問題が大きいため、斜里町の判断のように進めていただければ良いのではないか。知床斜里町観光協会に質問だが、これからどの程度伸びていくかというような見通しはあるか。また、ガイドウォーク

という事も、利用者が増加している要因であると思う。今後利用者が増加した場合に、対応するガイドの確保等、知床斜里町観光協会と知床ガイド協議会では何か対応を考えているか。

敷田座長

プロモーションを強化したことで、利用者数が増加したのではないかと推測する。提案の承認条件の内容、上限人数はどうであったか。上限人数は越えていないはずだが、実際に運用するにはガイドは組織で人数を増やせるのかという現実的な問題についてコメント願う。

知床斜里町観光協会 新村

今後の見込みについて説明する。厳冬期の知床五湖エコツアーは、昨年インバウンド利用が54%であったと記憶している。先程、斜里町よりインバウンドの数値目標が出ていたが、今後は伸びていくのではないかと予測している。欧米系の人達に人気のアドベンチャーツーリズム等々にも非常に合致しているツアーであるとみている。今後は大幅に伸びるという事は無いとは思いますが、大幅に下がるということも無いと見込んでいる。

一日の上限人数は150人であったはずである。

敷田座長

150人で間違い無い。

知床斜里町観光協会 新村

今年の実績からも上限数に達するまではっていない。上限数に届くほどの爆発的な入り込みは無いと思っている。プロモーションを行う際には流氷ウォークとセットで売り込んでいる。連泊に繋がると考え、今後もプロモーションを強化していく。爆発的に人数が増える事は無いと思うが、現状の利用者数を維持しながら周知を図っていきたい。

ガイド数は現段階では不足していないと感じているが、深く理解はしていないためコメントは控えさせていただく。

敷田座長

厳冬期の知床五湖エコツアーは、冬の資源開発としては非常に優れた事例であり、これがあったからこそ利用者も順調に増加しているのだと思う。このエコツーリズム検討会議で議論をした際には静寂性が一つの重要なキーポイントになっていた。そこは維持しようということで、皆さんが合意したということもあった。

一方で、エンターテインメントを楽しむ場所が必要であるという認識もある。それは従来から利用してきた自然センター付近のスノーシューによるウォーク等がそれに当たるの

ではないか。

静寂な五湖というブランド性を維持していただきたいと思う。その為に上限 150 人というのは絶対ラインであり、超える前にコントロールしていただきたい。150 人が妥当かどうかというのは科学的に計算したわけでは無いが、皆さんの合意で作られたラインである。それには一定の妥当性はあると思うため、越えないように努力するのではなく、越えないという確約をお願いしたい。

知床斜里町観光協会 新村

承知した。

敷田座長

150 人を超えないから良いのではなく、ガイドの案内の質により静寂性の確保には随分変化が出てくると思う。その点で不安がある場合は早めに関係者に支援を要請していただきたい。現状を伝える等の配慮を願う。その点について斜里町に支援いただきたいが如何か。非常に有効で有望な資源であるため、長く大切に利用した方が良いという判断をしていきたいと思うが如何か。

斜里町として 150 人を上限とすること明確にさせていただき、知床斜里町観光協会への支援をお願いしたい。しかし、上限以下の 149 人であっても静寂性が落ちるという可能性はある。

斜里町 河井

現在は上限 150 人に近い数字まではいっていない。環境モニタリングをしている限りでは問題はないという見解が出ている。現実的に利用者数が 130 人、140 人というようになってきた際には、150 人の妥当性を検討する必要があり、改めてこの場での議論が欠かせないという認識でいる。一方的に 150 人を逸脱するような考えは持っていない。協議会が事業主体であり、協議会会長は町長である。そういうことはあり得ない。

敷田座長

議論され信頼関係の上で運営されているため、私もそれは無いと思っている。逆に上限に近づいた際にはガイドへの様々な支援や体制強化を行なう等、ツアーの質が落ちないように斜里町として考えていていただきたい。150 人という数字に完全な科学的根拠があるとは思わないが、一定の目安として決定した数字である。上限に近づくという事は、人数が少ない時よりも厳しい状況がきているということ。そのカバーをお願いしたいということである。

斜里町 河井

承知した。

間野委員

厳冬期の知床五湖エコツアーは非常に有意義だと思っている。50 人平均の利用者で経過しているようだが、この程度の規模で事業の採算は合うのか。例えば、全く利用者が来なければやっても仕方が無いという話になるが、インバウンドも合わせて現状の 50 人程度のまままで継続していけば良いということなのか。

現行の法規の下では規制や管理ができないため、現状では来年度以降の継続は難しいということであった。しかし、大切なのは、「このツアーは素晴らしいものであり、冬の有効活用として静寂性を守りながら質の高い冬の知床の良さをアピールでき、今後もプロバイドしていける。」というような事がこれまでの実績から見えているのであれば、何らかの形で将来安定して実行するためのロードマップを検討すべきである。

「無理。無理。」という話ばかりで、「既存の法規では無理なんだ」としか聞こえてこない。実現するためには何をどうしたら良いのかを考えた方が良い。

例えば、知床五湖の夏のガイドツアーなども無理と言われながら、様々な試行を行っていく中でガイドウォークが実現した。今回は道道の通行という大きな問題があるわけだが、日本の自然公園内の道路管理というのは、建設部局が管理する仕組みになっており、自然公園内の人間の導線を一貫してどのように管理するかという問題は共通なはずである。あくまでも日本の制度の問題である。制度をこの目的に叶うように運用する為には何が必要なのかを検討するという方針を明確にしなければ、いつまで経っても実現ができないのではないかと。かなり望見的な意見かもしれないがそう強く感じた。

また、上限 150 人というのは、あくまでも現状の歯止めである。河井氏の発言では、モニタリングでは現行の水準程度で一定の静寂性は確保されているということ。例えば、今後は一日に 100 人、130 人が利用したという日が来るかもしれない。ビジターやガイドの印象を聞き取りながら、そういう場合の事例を見た上で、本当に 150 人というのが適正なのか、現行の入込数でツアーの採算が合うのかという事を含めて提示していただけると、適正な上限数についての合意形成がしやすくなると思う。

敷田座長

採算が合うのかという部分について回答願う。除雪費の問題などは検討の際の課題になる。実際のツアー運営は個々の事業者の方であり、それを含めると話が複雑になるため、見通しだけでも回答願う。

知床斜里町観光協会 新村

現在、利用者から利用料を 1 人 1500 円いただいており運営している。現状では枠内で収まっている。今後自主除雪となると、その年によって除雪経費に変動があるが、平成 29 年

度ベースでは採算が合うことになっている。

斜里町 河井

間野委員のおっしゃるとおりである。検討して難しい課題があるということはお伝えしたが、諦めているということでは無い。例えば、夏のカムイワッカのシャトルバス運行というのは、カムイワッカの入込数をコントロールするという事では無く、道路交通法に基づいた規制を行っている。それは、交通量が増加することによる粉じんの問題や、交通事故の防止という規制理由が整っているため、シャトルバス運行ができています。

では、この厳冬期の知床五湖エコツアーの場合であれば、道路交通法、道路法に基づいてできるのだろうかを真剣に考えたが、法令と照らし合わせると難しいという結論になった。この場にいらっしゃる多くの方と、あるべき姿やおおよそのイメージというのは共通であると思っているが、それをクリアできる法令を探しているが現時点では厳しい。

厳冬期の知床五湖エコツアーは静寂性という前提、バックカントリー利用という計画上の記載もあるが、バックカントリー利用を進めるための制度が無いという現状である。

町条例で行えないかという事も視野に入れてはいるが、あくまでも既存法令との整合性が問われる。そういう意味では、この場におられる関係機関の皆さんの合意無くしては整わないと考えている。

合意を持って進めるという事では無く、当然中央省庁等の判断も必要な案件になり、容易では無い。現状では壁にぶち当たっているが、諦めているわけでは無い。そのため課題を皆さんに見える形にしていく必要があると思っている。いつの段階でそれができるかまでは約束できないが、準備が整い次第お示しする。

愛甲委員

上限 150 人は根拠がある。最初は 150 人では無かった。静寂性が問われるというような事例を防ぐため、ガイドの皆さんは工夫されている。ツアーが始まると間隔を空けて歩いておられる。前回会議で私から発言したことだと思うが、距離を取るなどの工夫がされているので問題にはならない。問題になるとすればスタート時点である。午前と午後で一回ずつまとまって車で入る。しかし、これは現場の運用等を工夫すればクリアできる問題だと考えている。

厳冬期の知床五湖エコツアー事業の提案が出た際より何回も出ていた話だが、基本的には「知床に冬の来訪者に多様な機会を提供する。」という考え方があったはずである。冬にはフレペの滝利用者も多くいる。それらも含めて利用の機会を提供するという考え方の中に位置付け、どういう場所として知床五湖を使うのかを考えることが必要だと思う。

敷田座長

本日は提案が無い場合承認や決定という手続きは必要ないが、今の議論を確認したい。

承認時の条件である上限 150 名というのは当面の設定である。これを超えないようにしてほしい。超える予測がされる場合には、事前に関係者に打診していただきたい。上限の 150 に近くなるという事は、それだけ管理が難しくなるということであり、関係者の支援を是非お願いしたい。試験除雪を負担の下で継続するというのが現在の条件を変えないことと理解し、それを維持していただきたい。最後の一点は検討が進まないという現状では一番良い選択肢だと思う。

斜里町 河井

愛甲委員の発言どおり、現在は 1 日 2 回の出入りで全体をコントロールしていることから、スタート時点で問題となりそうな状況が起きている。現在はガイドにより自発的に非常に上手く調整していただいているが、スタートの時間の調整によりコントロールする方法はあり、次年度以降の課題として考えている。

費用負担、試験除雪について回答する。試験除雪は、試験をする目的があるという事が前提にある。道路管理者の意見としては、通年で開ける必要があるのかという事もある。そのため、今年度は自主除雪に自発的に切り替えているということ。試験除雪をしていたら有難いが、次年度も自主除雪が現実的な判断なのではないか。

敷田座長

利用者が増加している現状があるのであれば、法令的に即時解決ができない現状では、自主除雪の選択が一番良いと思う。それを維持していただきたい。

上限の 150 人はあくまでも承認当初の目標であり、インパクトが増えなければ考えていただいても結構だと思う。

例えば、目的が違う利用のエンターテインメント系等の場合は、知床自然センターが既に用意された場所である。道路の除雪を拡張して収容人数を高める等の場合には、静寂性の議論を進めるべきであると思う。

また、上限を超えるほどの人気があるとなれば、自主除雪を含んで単価を見直して良いという考え方も取れる。採算性の問題があるとは思いますが考えてはどうか。

この議論は冬期の有効な資源、有望な資源を開発しようという事から出発しているので、関係者の皆さんは是非そこを見失わないように願います。ここを開発することが目的ではなく、有望な資源を開発するという事である。このようなパターンで他の資源を開発していけば、ここで 150 人を超える計画を無理に考える必要も無い。私からすぐに可能性についての説明ができるわけではないが、知床自然センターの利用というのは十分満足度が高い利用があると聞いている。様々な可能性を考えた上で位置付けていただけないか。「利用できるのはここだけしか無い。」というような選択肢を求められると非常に判断が厳しくなる。皆様の合意も難しくなると思う。是非、多様な資源開発を考えていただきたい。

中川委員

現在の議論と少し外れるかもしれないが、同様のものとして 100 平米運動の森づくりの道が新たに作られたということがある。冬に静寂の中で歩いて自然体験できるコースは、五湖以外にも「フレペの滝」、「森づくりの道」などがある。既に後に出てくる利用状況調査の資料にあるかも知れないが、関連して教えていただきたい。

知床財団 寺山

知床自然センターを拠点として、冬にスノーシューで歩ける 3 コースを提供している。フレペの滝が一番一般的であり、全体の 9 割の方が利用している。リピーターの方や静寂性を求める方は森づくりの道を利用している。

昨年夏にオープンした森づくりの道「開拓小屋コース」と同じルートを現在提供している。私は昨日も道をつけるために歩いてきたが、大変静かなところである。

知床自然センターは様々な形で選択肢を提案する事を心掛けているが、多くの利用があるという現状ではない。

敷田座長

私の個人的な意見であるが、自主除雪をしているのであれば道路の管理を管理者から委託してもらうという方法があるはずである。道路のごみ清掃などを道路管理者と特定の受託者が共働で行うアダプトプログラムという制度があり、受託者がかなりの権限を有している例があると思う。研究していただきたい。

残り 3 つの個別部会等からの報告について、環境省より説明願う。

【議事 3. 個別部会等からの報告（2）知床五湖地区における取組】

【議事 3. 個別部会等からの報告（3）カムイワッカ地区における取組】

【議事 3. 個別部会等からの報告（3）ウトロ海域における取組】

事務局 環境省 西田

知床五湖地区における取組の進捗状況について説明。（資料 3-2）

カムイワッカ地区における取組の進捗状況について説明。（資料 3-3）

ウトロ海域における取組の進捗状況について（資料 3-4）

敷田座長

3 件の報告に関して意見はあるか。

愛甲委員

知床五湖利用期区分の再検討についての春期検証実験時アンケートについて伺う。非参加者の内、「望ましい」という回答は 32%であったという事だが、この非参加者とはどうい

う方なのか。植生保護期の時期にヒグマ活動期として設定したツアーを春期検証実験としてやったということだと思うが、その際に地上遊歩道を歩いた人なのか、知床五湖に訪れた人なのか。

また、「望ましくない」と回答した人は何%であったか伺いたい。

事務局 環境省 西田

資料に詳細を記載しておらず申し訳ない。地上遊歩道には大ルートと小ルートというルートがあるが、普段小ルートは除雪をして開けており、この期間も一般解放している。大ルートは除雪しないため、この実験期間中のみ実験の為に使用した。

非参加者のアンケートは、植生保護期の制度に則り地上遊歩道の小ルートを利用した方を対象に行なった。

知床財団 秋葉

アンケートを担当した知床財団より回答する。非参加者である小ルートの利用者が「望ましくない」、「大変望ましくない」の回答を合わせて5割程度であったと記憶している。

調査票の設計に少し問題があったと感じている。既存の制度があることの説明と、変更になった場合の説明、メリット、デメリットを含めて制度の説明は非常に難しかった。また、ツアー費用を5,000円というように具体的に出したため、知床五湖の入場料が5,000円になると誤解された可能性もある。

来年度もアンケートの実施を予定しているため、制度の変更前と変更後の説明が伝わることを確認しながら設計する必要があると考えている。

愛甲委員

小ルートと大ルートが違う評価になっている気がしたため質問した。植生保護期をヒグマ活動期にするということを純粋に評価していただけたわけではないと思う。結果を報告する場合に単純にこういう書き方をしてしまうと、同意が得られたのは32%であったというように見えてしまうため工夫が必要である。

敷田座長

資料を修正して再配布をお願いします。

一旦休憩に入る。10分間休憩で15時40分から再開をしたい。

残りの議論は長期モニタリングとその他の項目であり、終了予定は16時15分頃となる。アンケート用紙は休憩時間か終了時に書いていただきたい。事務局も含めて全員に書いていただきたい。

-----休憩-----

敷田座長

会議を再開する。

議題 4. 長期モニタリング計画の見直しについて、事務局から説明願う。

【議事 4. 長期モニタリング計画の見直しについて】

事務局 環境省 守

平成 29 年度 長期モニタリング中間総括評価（案）について説明。（資料 4-1）

敷田座長

主にワーキング委員に関連した事項になるが、他の皆様からも内容について意見があれば遠慮なく発言願う。この検討会議およびワーキングについては科学的な根拠に基づいて進めることになっているが、利用の分野は科学的な判断が難しく、社会との関わりが非常に強いということがある。その現実を承知の上で意見をお願いしたい。

小林委員

今後の方針の下から二行目、説明のとおりワーキンググループとの議論等を連携しながらとあるが、その後、具体的な利用に伴う影響の項目、例えば植生等をいくつか挙げて記載すると主旨が分かりやすいのではないか。

中川委員

私もできるならば具体的に項目を挙げた方が良いと思う。何を指標にするかということでは難しいと思うが、指標を作らなければモニタリングにならないのではないか。例えば、ヒグマの場合は距離のような問題は指標にはならないかもしれないが、野生動物と利用者との関係というのは今後非常に大きな問題となっていく。具体的な評価基準にできたら良いと考えている。

事務局 環境省 守

具体的な基準を挙げることができれば良いが、今年度はモニタリングの課題について洗い出すところまでを考えている。具体的にどういう評価項目が必要なのかというところは、他のワーキンググループ等での検証も踏まえ、本ワーキングではどういう事を担当すべきかを決める必要がある。

科学委員会全体の方針により、今年度は課題の抽出段階であり、来年度からどういう項目をどう割り振っていくかを検討する。そのため、中間評価では具体的なところ控えさせていただいた。

敷田座長

想定としては植生等のように明確に測れるものが候補になると思う。

愛甲委員

私は評価指標を具体的に挙げることは現段階では難しいだろうと思っている。植生のデータがあるとしても、利用による影響を測るために調べられた植生データではないと思う。それをここで挙げてしまうと、そのために調査されたデータとして扱われることになってしまう。果たして本当にそれで評価ができるのだろうか。

しかし、一方でエゾシカ・ヒグマワーキングでは、モニタリング項目に「ヒグマと人の不適切な利用」というような項目が挙げられている。そういう項目は利用に関するモニタリング項目に入れても良いのではないか。

既にエゾシカ・ヒグマワーキングではモニタリング項目として取り扱っているものであるため、他のワーキングと連携して、どのワーキングでそれを評価するのかということを整理する必要がある。評価指標を挙げられるものと挙げられないものがあるのではないか。

適正な利用を評価するという基準は、現状で明確に挙げられているわけではなく、利用者数だけを取りまとめているという状況である。

しかし、その一方で本日もいくつか報告があった個別部会、前回会議に報告があった知床沼の部会等や赤岩地区昆布ツアーの植生モニタリング結果が報告されている。それぞれの部会が行っているモニタリング、知床五湖でも定期的に様々な事業を起こす際のアンケートも行なわれている。それはこの長期モニタリングとは関係なく行われており、とても勿体無いことだと思う。

このようなモニタリング結果は、この適正利用エコツーリズム検討会議で既に評価した事になっているのではないか。それぞれの個別部会や実施部会で行っている調査結果を認めているという事は、適切な利用ができているという事を我々がここで認めているということではないか。長期モニタリングでいう知床での適正なレクリエーション利用が行われているかは毎年皆さんに確認しているのではないか。

確かに数として定量的には出てこないにしても、こういう部会を立ち上げて適正な利用を行っており、この枠組みの中でも回しているという事自体で、モニタリングを行なっているということにならないのだろうか。以前からそのように感じている。

新しいモニタリングを行わなくても、現在行なっていることを見直し位置付ける事が大切ではないか。

事務局 環境省 守

他のワーキンググループでも「計画や長期のモニタリングを分けて考えなければいけない。」「この項目は連携させて長期モニタリングでも利用してはどうか。」というように整理していく必要があるという話は出ている。エコツーリズムワーキングでは、個別部会で

行なっているモニタリングと長期モニタリングとの連携等、利用できるものは利用していく。検討会議の中で行なっているモニタリングについても、分ける必要があるものは分けるということを考えていきたい。

個別部会はあくまでも知床エコツーリズム戦略に基づいて提案された事業に対してモニタリングしている。一方、長期モニタリングは登山道の利用状況等の従来の利用を対象としている。新しい利用は個別部会で行なったモニタリングを利用するというパターンもある。長期モニタリングという枠組みでは対応できないため、利用に対する植生の影響を見て行こうということもあると思う。また、モニタリングはエコツーリズムワーキングが担当するのか、科学委員会が担当するのか、それともエゾシカ・ヒグマワーキングで担当するのかという議論も科学委員会でされると思う。

敷田座長

明後日の科学委員会には、私と愛甲委員が出席する。

このモニタリングというのは、人間でいえば人間ドックや健康診断のようなものだと思っていただければ良い。健康診断の時には血圧や GTP 等を測るが、知床でいえばそれが生態学や環境のモニタリングにあたる。皆さんが人間ドックを受けた時に「お酒何本飲んでいますか」、「タバコは一日何本吸いますか」というよう聞かれると思う。ビールが 5 本までは良いけれども 6 本では駄目だというように個人によって非常に違いがある。しかし、「ビールを一日 2 本飲むと血圧がこれだけ上がる」、「塩を 5 グラム取ると血圧がこれだけ上がる」という因果関係が分かればモニタリングする意味が出てくる。

現在は別々に測っており、その関連を説明していないというところがあるため、その事を科学委員会で報告したい。

ビールやタバコの本数、塩の量を聞いても、それがどのように体に影響があるかという因果関係が、この分野では説明しにくい事もありなかなかクリアにはならない。現状では測れる手段は利用人数であるため、ビールやタバコの本数を数えさせていただく形となる。今後もモニタリング、人数のカウントについては是非正確なデータをお寄せいただきたい。

一方で新しい評価方法については、利用の内容がどうなっているか、お酒の飲み方が激しいかゆっくりかみたいなところは、直接的に影響を与える部分のため知りたい部分である。新しい評価方法、調査方法は主にエコツーリズムワーキングメンバーが考えていくが、データを取る手段となる現場の方々の協力が必要である。今後もよろしくお願いします。

先程の静寂性の問題等は特にその良い例で、静寂性をどのように測るかは現場の協力なくしては成立しない。赤岩でも同様である。知床では先進的に試みていきたいので理解願いたい。

あくまでもこの検討会議としては、過度な利用が無い状況を維持したい。問題になるのはその「過度な利用」とする場合の基準である。今後説明があると思うが、知床国立公園利用のあり方に関する懇談会を通して、過度では無い利用、長く使える利用がどんな状態

なのかということがまとまれば、1、2年の内に皆さんで合意できるようにしたい。それにより初めて判断基準が生まれてくるということになる。

それぞれの方が考える「健康である状態」は違う。座長としては「知床にとって健康であるという事はこういう状態である」ということが、この検討会議で共有できれば基準もできてくるのではないかと考えている。また意見を聞かせいただきたい。

間野委員

急遽、知床エコツーリズム戦略を読んでみた。その中の将来目標に「遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上」というのが真っ先に挙がっている。その観点からは「現在のレクリエーション利用によって棄損されていないという事をきちんとモニターしています。」という説明が必要である。2番目以降にも「世界の観光客に対する知床らしい良質な自然体験の提供」、「持続可能な地域社会と経済の構築」というものを掲げてある。この適性利用エコツーリズム検討会議では、知床エコツーリズム戦略の下に様々な事を検討して進めてきた。

新たな事業のモニタリングは、利用により自然環境を損なっていないという事を示すためのものである。

例えば「知床エコツーリズム戦略に基づいた新しいエコツアーがいくつ生まれ、それによりどれだけの入込や経済的な価値があったのか。」「これまでに無かった原生的な環境で質の高い利用を提供できたのか。」というような事が評価できるような指標というものを、次のステップとして科学委員会に説明することが求められているのではないか。

敷田座長

間野委員の発言は、健康維持でいえばどれだけスポーツをしたかという前向な努力を指標に組み込むという事だと理解して宜しいか。はい。今回の中間評価の文面には入れずに付帯的に話をするということで宜しいか。

事務局 環境省 石川

長期モニタリングは、モニタリング計画に記載のあるとおり、遺産のクライテリア、価値が損なわれてないか、IUCNの勧告を踏まえ適切に管理できているかを評価するためのものである。長期的な視点で監視を続け、危ない状況の赤信号になる前の黄色信号を効率的に把握するというものである。

間野委員ご指摘の点は、長期モニタリングというよりは、知床エコツーリズム戦略をフォローアップしていく際の指標として検討いただくのがよいのではないか。

敷田座長

私が説明したかったのは、新しい評価手法の中にそれが入っても良いのではないかと

うこと。文面の補足ということ。長期モニタリングでは項目にも入っていないため、ダイレクトには無理だという事を理解願う。

次に平成平成 29 年度知床国立公園の利用状況調査結果（暫定版）の説明と、議事 5. その他について環境省より説明願う。

【議事 4. 長期モニタリング計画の見直しについて】

平成 29 年度知床国立公園の利用状況調査結果（暫定版）について説明。（資料 4-2）

【議事 5. その他（1）知床国立公園利用のあり方に関する検討について】

事務局 環境省 守

知床国立公園利用のあり方に関する懇談会経過報告について説明。（資料 5）

敷田座長

説明について意見やコメントがあるか。知床国立公園利用のあり方に関する懇談会に参加されている方も多いと思うが、その際に言えなかったコメント、運営方法についての意見はあるか。

中川委員

先端部の利用をきっかけに、既存のルールを見直そうという事から始まった知床国立公園利用のあり方に関する懇談会だが、知床全体をどうするのかという基本的な利用コンセプトを、もう一度見直す必要がある。この大枠を話し合うということが一番重要な事である。そういう意味では、この部会はもっと広い範囲を含めても良いかも知れない。知床を幅広い意味で将来どうしていくのかという答えが出なければ、ルールの見直しも進まないと思う。是非、大枠を検討するという事をこれからやっていただきたい。

小林委員

長く適正利用エコツーリズム検討会議に携わりながら気づいた事がある。戦いでいうと戦術的な議論はやるが、戦術の議論した際に戦略が論理的にぶつかりハングアップしているところがある。利用のあり方というのは、知床エコツーリズム戦略のタクティクスをどうするのかという議論になるのだろうと理解している。知床の大元の戦略を立てる為には、知床のバリュー、価値付けという議論が必要になる。先程、外国人旅行向けの情報発信の中でどのような価値をどう発信していくのかという話が出ていた。知床の持っている価値というのは、世界遺産に関するエコロジカルという評価ははっきりしている。ところが、最近では文化的な面も生態系サービスとして議論されている。この文化的側面は、これまでの知床の議論では少ない部分である。知床の歴史、社会、文化といったものを含めた上で知床の価値、生態的な価値、神秘的な価値、美しさの価値、レクリエーション的な価値、

環境教育的な価値といった価値の方向性を先ず皆さんで確認する。そして、それをどう守っていくか。知床国立公園利用のあり方に関する懇談会において、目標や次の戦略が決まれば、これまでの議論をより強固なものにして補強していくという観点で議論を進めて欲しい。

羅臼山岳会 佐々木

単純な疑問である。知床国立公園利用のあり方に関する懇談会に出されている事業は、改めて知床エコツーリズム戦略に基づく提案事業として検討会議で提案されるということか。

敷田座長

参加されている方を含めて、もっともな疑問だと思う。環境省石川氏より説明いただけるか。大きな流れや 5 年間の計画、知床エコツーリズム戦略の中でも検討の必要性は出ており、ルールの再編という言葉が入ったため非常に分かりにくくなり、そちらでルールを作れるのかというように誤解を生む。どういう方向へ持っていくかという議論をしてもらっているが、現状では多少問題があるため修正が必要だと考えるが如何か。

事務局 環境省 石川

知床国立公園利用のあり方に関する懇談会は、知床エコツーリズム戦略の提案とは異なるものと認識いただきたい。

昨年度、知床半島先端部地区利用の心得を改訂する部会で議論した際に、知床全体の利用のあり方を大きな場で議論したいという声が沢山あった。そのような声を踏まえて、この懇談会を設置したという経緯がある。今後の進め方としては、懇談会で地域の方々の意見を伺った後、この適正利用エコツーリズム検討会議などへ検討の段階を上げ、専門的、多様な意見を聞きながら利用のあり方を考えて行きたい。昨年度、既存のルールや計画が分かりづらいという指摘も多かったので、今年度を含めた 5 年間を目途に、既存のルールや計画の変更を含めた検討を計画的に行っていくという大きな流れである。

事務局 環境省 安田所長

資料にあるシャトル船というのはあくまでも例示である。知床の利用のあり方全体を議論していく際には、理念的ではなく、具体的な話から入って行くという事になり、このような話が出てきた。

あくまでも例示であって、知床全体としてどういう考え方の下にそういう利用ができるかという事であり、具体的な利用に繋がるという事では無い。

座長の発言にもあったように、具体的な利用の仕方が出てきた事をもってルール化するのではなく、そういう利用の仕方をするのであれば知床全体でどう考えていくかという事

をまとめていこうと考えている。

敷田座長

現段階で具体的に何かに繋がるという話ではない。知床国立公園利用のあり方に関する懇談会は皆さんに広く意見を聞く場であり、ここで何かが決められるという事では無い。知床エコツーリズム戦略に一定の方向性は出ているが、それを具体化する、見直す、更にその上位計画である知床世界自然遺産地域管理計画に知床の理想的な維持の仕方、姿のようなものを書いていくというような事に繋がっていけば良いと考える。新しいルールを増やす、合理化するというような話では無い。

座長個人の意見になるが、ルールを多言語化、多文化化していかなければならない現状を考えると、できるだけシンプルで少ない方が良いと考えている。

利用の基準は誰にでも公平に判断できるものが良いと考えている。その方向性で最終的な検討が進めば良いと思っている。ルールは手段であるという事を忘れないようにしていただき、「こういうように使おう。」「そのための最低限必要なルールはこれである。」という整理ができればスムーズに物事が運べるのではないかと思う。知床国立公園利用のあり方に関する懇談会では忌憚のない意見を出していただきたい。そのレベルは非常に細かいところから大きいところにまでなると思う。

羅臼山岳会 佐々木

はっきりと理解はできていないが、3月1日開催の知床国立公園利用のあり方に関する懇談会には参加するつもりである。この会議とは別枠で最終的にはこの会議で委員の意見を伺うということである。私は第1回知床国立公園利用のあり方に関する懇談会に出席していなかったが、会議の中では先端部の具体的な利用について白熱した議論があったという話を聞いている。2回目の知床国立公園利用のあり方に関する懇談会に出席した際には、知床エコツーリズム戦略で検討する事業について、かなり密に検討していると感じた。

地域の意見を広く聞く段階であるといっても、議論に参加するメンバーがほとんど同じであり意味が無い。方向性が違っているのでは無いかと危惧している。

敷田座長

皆さん混乱しているため、環境省は運営について考えてほしい。説明方法を変えていただきたい。

事務局 環境省 守

非常に申し訳ない。第1回知床国立公園利用のあり方に関する懇談会において、皆様の意見を広く聞くとは言っても、具体的で無ければ分からないという意見があった。そのため、具体的なところから拓げていくという議論の流れになっていた。目標は大枠の話し合

いをするという事から変更は無い。

また、知床国立公園利用のあり方に関する懇談会で出た具体的意見は、あくまでも例示であり、事業者がやりたいという事になれば、この会議で提案していただく必要がある。会議を別にしている理由というのは、エコツーリズム検討会議はあくまでも知床エコツーリズム戦略に基づいた提案を議論する場であり、会議の時間の多くは提案に割かれている。そのため、地域の方々の「知床をどうして行きたいか」というような意見を聞く会、専門家の居ないところで、より自由に発言したいという意見もあったため、別に設定させていただいた。

敷田座長

専門家が居ないところで自由な発言というのは余計な話しである。(会場：笑) 我々ワーキング委員は皆様を規制する為に居るのでは無い。規制するのは、事務局側の権限を持った方である。私共は適正な利用を進める為にアドバイスするという立場であり、具体的な権限は持っていない。その点については誤解の無いようお願いしたい。

環境省は、このような場づくりの為に相当な努力をしている。皆さんがその場を利用して様々な意見を出し、活用していただければ良い。将来的には、知床エコツーリズム戦略を更に現実に合うようにしていくというような方向性はあっても良いと思う。特に提案の検討で様々な事例が出てきたのは、皆さんや私たちの経験による学習が進んだということである。それが具体的に言語化され、知床エコツーリズム戦略が良くなり、更に知床世界自然遺産地域管理計画の議論ができて、明確になるように改定をしていければと思う。

環境省は宜しいか。はい。委員の皆さんも宜しいか。はい。

知床国立公園利用のあり方に関する懇談会においては、できるだけ多様な意見を聞くために従来の関係者以外も含めていただけるという事である。直接知床に関わっていない方からの意見を聞いていただく機会を作っていただければと思う。それが本来のあり方の議論だと思う。

【議事 5. その他 (2) 第 41 回世界遺産委員会決議の対応について】

事務局 環境省 太田

第 41 回世界遺産委員会決議について報告する。昨年 7 月のハンガリー(ポーランド)のクラブにおいて、第 41 回世界遺産委員会が開催され、知床に関する要請、リクエスト等が決議された事は前回この場で紹介した通りである。

現在、出された決議に対応するため、各ワーキングにおいて鋭意議論を重ね、方向性を示して検討を進めているところである。

エコツーリズムワーキングにおいては、本文にて最新の情報に修正するとともに、知床エコツーリズム戦略の英訳を行い関連資料として添付する考えでいる。

【議事 5. その他（3）検討会議参加者意識調査のお願い】

敷田座長

先程お願いした通り、アンケートに協力いただきたい。

【議事 5. その他（4）観光庁および域外観光事業者の検討会議への参画について】

敷田座長

前回会議において議論した事だが、観光庁は観光分野では非常に力を付けつつあり、出国税等の関係でも財源豊かになってきている。知床でも協力すべき対象となってきた。その為には、是非この知床エコツアーリズム検討会議にも参加していただき、地域以外の情報を含めて提供いただきたい。環境省安田所長と石川課長の努力により、正式に話をしていただき、本日試験的に北見運輸支局より田尻氏に参加していただいた。

実は、北海道運輸局からは2012年まで関係行政機関として参加していただいていた。一旦こちらから退席をしていただきながら、また参加を呼びかけるのは大変失礼だが、状況を見ると是非来ていただくべきだと思いお呼びした。本日の案件でもコメントしていただける場面は多かったと思う。座長としては次回会議からはオブザーバーとしてではなく、関係行政機関として参加していただきたいと考えている。

皆様如何でしょうか。環境省安田所長、補足をお願いします。

事務局 環境省 安田所長

本日は試験的にオブザーバーとして出席いただいているが、是非関係行政機関として参画をいただきたく、皆様に了解願いたい。また、地域外の観光事業者の方々の参加については、観光庁と相談しながら検討していきたい。

敷田座長

ここでの域外観光事業者というのは、札幌以遠より送客してくる側の観光事業者が良いと考えている。招待等についてお考えいただきたい。この件に関して何か意見やコメントはあるか。特に無いようであるため、このまま進めさせていただきたい。北見運輸支局の田尻氏から挨拶願う。

北見運輸支局 田尻

北海道運輸局の田尻です。以前は釧路運輸支局と北見運輸支局が参加していたが、一旦離れていた。観光振興する立場として、今後は関係行政機関として参画したいと思っている。北見運輸支局が担当するが、必要に応じて札幌の観光部からもオブザーバーとして出席するという方向で検討している。よろしく申し上げます。

敷田座長

観光部に関する事業などとして、寺山氏が参加されているアドベンチャーツーリズム協議会がある。そこでは民間部門と協働しながら様々な新しい施策を進めている。知床でも是非そういう関係への協力をお願いしたい。

議題は全て終了したが、追加もしくは補足して何かあるか。

これで平成 29 年度第 2 回の知床適正利用・エコツーリズム検討会議を終了したい。

本日も議事運営に協力をいただき、また活発に意見をいただきありがとうございました。事務局の皆様、毎回資料を丁寧に作っていただきありがとうございます。事務局の皆様のお陰でこのように議事運営ができている事は、皆様にもご理解いただけていると思う。その点では様々な批判や意見をおのずと聞いていただければと思う。どうもありがとうございました。

事務局 環境省 石川

本日の会議を終了する。皆様長い時間どうもありがとうございました。

-----終了-----